302.71
To46
302.71-To46-ウ
1200500734232

濠洲事情

府立東京商工奬勵館編

始

93
25
昭和十七年四月
資料整備第五十三号

濠洲事情

府立東京商工奬勵館

（以印刷代謄寫）

目次

一、濠洲の一般事情……東京商工奬勵館貿易部長　安本重治……一
二、濠洲最近の情勢……商工省嘱託　岩崎實太郎……二三
附錄
濠洲に關する諸統計……四一

302.71
To.46

濠洲の一般事情

東京商工奬勵館貿易部長　安本重治

發行所寄贈本

赫々たる皇軍の武威は南洋一體を制壓致しまして、戰果は更に西北ビルマに及び、東南は濠洲大平洋諸島に及んで居ります。南洋方面の事情に付きましては皆さん方、新聞雜誌で可成り詳しく御存じのことでありますし、私も此の二三ケ月の間に可成り方々で御話致して參つたのでありまして、もう皆さん方の眼と耳は南洋方面から濠洲に向ひ印度に向つていられる事であらうと思ひます。私は昭和六七年にかけまして印度にも參り、昭和九年には濠洲にも參り兩方の事情を一通りは知つて居るものですから、此の際は濠洲に加へ印度のことも、御話したいのでありますけれども、仲々濠洲だけの話をしましても、相當時間をとりますので、今日はさしより濠洲に關する御話を申上げやう、斯ういふつもりで此の會を開いたのであります。

それで私は只今申上げた通りに濠洲に參りましたのは少し年月が經つて居りまするし、其の後濠洲のことに付ては深く注意して居つたわけでもありませんけれども、マア基本の事情を申上げるのは差支へないのぢやないかと思つて此の演壇に立つたわけであります、併し私は前座でありまして、此處に御列席の商工省シドニーの通信員でいらつしやる岩崎さん、先年迄は商工奬勵館の囑託も御願ひして居りましたのですが、事變が進展すると共に昨年の暮お歸へりになつて居りますから、岩崎さんから最近の濠洲情勢を伺ふことに致します。

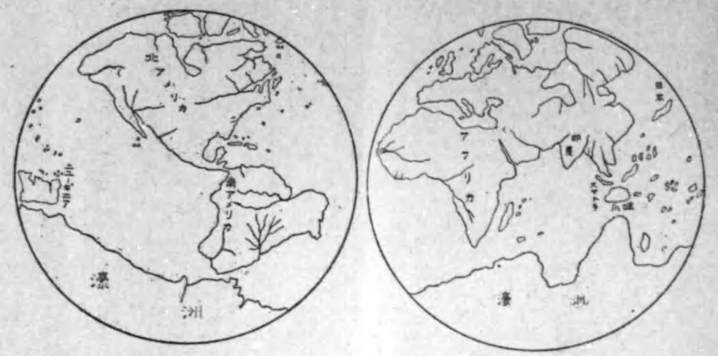
それでは先づ歴史がかつた話から申上げますと、斯ういふ大きな土地が此處にあつたといふことは割合新しく世界に知られたのです、コロンブスがアメリカを發見しまして以來、世界の强國であつたポルトガルとスペインが海洋に乘出して、此の兩國は非常な競爭的の立場に立ちましたが、時のローマ法王が調停をし、所謂ポープラインと云ひまして、大西洋の眞中、アゾーレス島の西方三百七十リーグの處に假空の一線を劃したのであります、一リーグは我が一里八町になるそうでありますが、經度から云ひますと、西經四十五度三十七分になるとの事であります、其の線の西の方はスペインの活動範圍にしたら宜からう、其の線の東の方はポルトガルの活動範圍にしたら宜らう、斯ういふことを言つたのであります、是が一四九三年、十五世紀の末の事です、それで此の大きな濠洲といふ大陸があるといふことは、東廻りをして海上發展を致したポルトガル人によつて、第一にボウツとながらも、知られたやうであります、大體東南太平洋には是だけの澤山の島々がありまして、澤山の種類の人種が居りますから、此の島々の半未開の人間の間にも南の方に大きな陸地があるといふことは知れて居つたのは疑を容れぬのでありますが、併し文明國人が大きな土地があると云ひ出したのはポルトガル人が最初ではないかと思ひます。

ポルトガル人が南方の洋上に大陸があるといふことを言ひ出して、それに因つてオランダ人とイギリス人が十六世紀の終に地圖を書いて居ります、是は一五八九年に出來ました東半球及西半球の二つの地圖であります、（第一圖參照）南洋諸島、印度、日本等、何れも今日から見ると、とてもおかしな形でありますが、一番下が濠洲であります、名前も Tera Australis とつけられてありますけれども、その形たるや、亦とんでもないものでありまして、南アメリカの、まだ南にまで廣がつてゐるなんて、隨分夢の世界を描いたものといへませう。

所が段々進みまして、一六〇五年、十七世紀の初めに——此の頃は海上發展、植民地建設史上、誠に重要な時代であります、即ち一六〇〇年にはイギリスが東印度會社に馬來統治の特權を與へた、又一六〇二年にはオランダも東印度會社を拵へた、そういふ忙しい時でありますが、其の一六〇五年にスペインのデ・キロスとトーレスの二人は、其の頃スペインの植民地であつた南米のペルーから濠洲目ざしてやつと來たのであります、キロスといふ人は濠洲の海岸迄來て大風に吹きはらはれて陸地に上らなかつた、そして海上幾十日の生活に失望してゐた船員の手にかゝつて、その身は海中に投棄せられたのでありますから、先づ濠洲を知らずして終つたといふ外はありますまい、同僚のトーレスといふ人は別の船を艤して來たのでありますが、これも今日の木曜島、眞珠貝の澤山とれます木曜島と、目下日本軍が爆擊して居りますニューギニアの間を通つて比律賓に行つたのであります。それで此の人も今日ではトーレス海峽といふ名を殘して居るに過ぎません。

デ・キロスやトーレスと時を同じくして來た和蘭船ヂューフケン號は矢張り北東濠洲の一角を過ぎて居りますが、其探檢の成果も申すに足りませんが、其の後一六四二年から三年にかけて矢張りオランダ人のタスマンが濠洲の探檢に乘出して來た、これは稍々精確な

933
257



（西半球）　（東半球）

第一圖　一五八九年に作られたる世界地圖

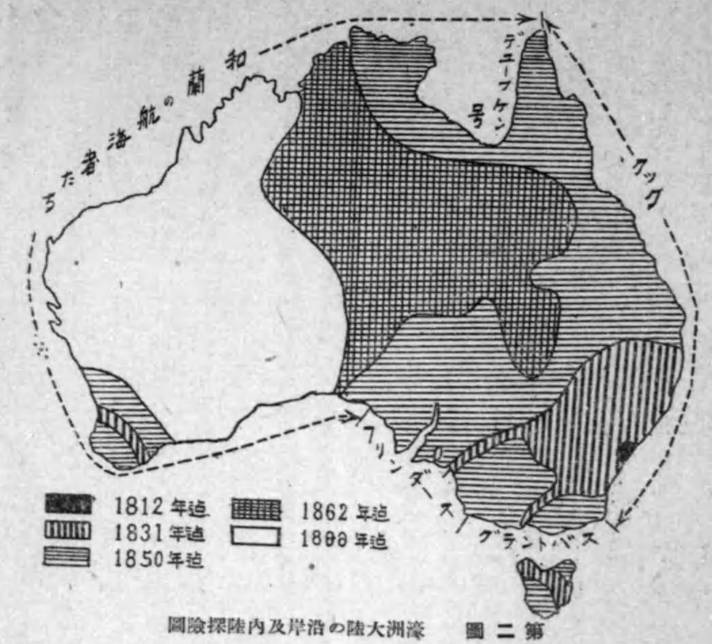
探檢の成果を擧げております、仍ちタスマンはオランダの植民地のジャワから濠洲の西の方を通つてタスマニヤの南の方へ來まして、彼處にバン・ヂーメンス・ランドといふ名をつけた、バン・ヂーメンといふのは其の時のジャワの總督の名でありまして、タスマンはその總督から南に行つて大陸を見付けて來いといふ命令を受けのたのでありますが是は後のことですが、流刑制度が無くなりました一八五三年に、此の島の住民がタスマンの偉業を慕ひまして、島名を改めてタスマニヤといふ名を付けたのです、タスマンが勝手に自分の名をつけたのではありませぬ。

それからタスマンはそのまゝ、タスマニヤの南を通つてニュージーランドに行つて居ります、それゆえ、タスマンはタスマニヤが島であるとは知らずに終つております、多分これは濠洲大陸の一部でもあらうと信じたのでありませう、で、ニュージーランドといふのも、今日では勿論英語つゞりになつて居りますけれども、昔は、オランダ語のNieuw、オランダ語でも新しいといふことで、ジーランドといふのはオランダの地方名であります、さうしてそれからニューギニアの北を通つて、ジャワに歸つて居ります、そして翌一六四四年にも更に北部濠洲のカーペンタリア灣を廻りまして、西の方に歸つて居ります。ですから、オランダといふ國は、今日でも東印度七十三萬平方哩、日本の總面積、內地と朝鮮、臺灣、樺太を入れた面積の殆んど三倍近くの面積を有つて居つたのでありますが、昔はもつと廣い土地を有つて居つたといふことになりまして、濠洲も其の時にはニューホルランド、即ち新オランダと云つて居つた、けれども、如何にも此の土地は潤ひがない、ジャワといふ所は——南洋の話は、今日は致しませぬけれども、恐らく一番潤ひのある、物產の豐かな、樹木の茂つて居る所ですから、ジャワから濠洲に來て、濠洲が如何にも水氣のない、カサカサした、土地はあんまり肥えて居なささうなところ、而かもオーストラリアン・アボリジンといふ世界最未開の土人が住んで居るのですから、此所はつまらぬと思つて引上げたのでありませう。唯有耶無耶に引上

げたのでなくて、一六四五年、タスマンが初めて來た時から僅か四年目に命令を出して引上げて居るのであります、しかし、私は和蘭が濠洲を領有するに至らなかつた眞の原因は、タスマンが濠洲の西北部面を見て、東南部面を見なかつたからであると信じます、東南方面は濠洲の最も好い處でありまして、此處を見なかつたのは、和蘭には不幸であり、誠に一寸した原因から、歷史が思はぬ方向に定められる事に驚くものであります。尙ほタスマンは南方ばかりでなく、その後日本の近海にも來、千島方面の航海をも致してをるのは、偉大な探檢家であると謂はなければなりません。

其の後は英國の關係になるのですが、英國の濠洲探檢家にはダンピーアといふ人もありますけれども、影の薄い人で、一七七〇年キャプテン・クックといふ人が、シドニーの南八哩のボタニー灣に上陸して英國の旗を立てた、是が英國の關係のついた最初であります。

一體クックといふ人は、今迄のタスマン等と違ひまして、濠洲を探檢するのが第一の目的ではなかつたのであります、濠洲の東方にタヒチといふ小さい島があります、フランスのゴーギャンといふ畫家、後に狂人になつたが、非常に有名な畫家で、タヒチに行つて土人を妻にして長く住んで居つたといふので、その爲めにも名高くなつたタヒチ島へ、英國から學術探檢隊が出た、大陽の面を過ぐる金星の觀測に一番好いといふのでタヒチに船を出した、其の學術隊で船長を求めてゐた時に、クックが選れて船長として來たのであります、ですからその船には天文學者も乘つて居るし、植物學者も乘つて居た。それでタヒチの天文觀測が終ると、船を西方に向けまして、一七七〇年に濠洲の地に上つたのであります。考へてみますと、今からたつた百七十餘年前に英國は學術探檢に、而も天文の觀測に船を一艘大平洋の小島に出した、其の際に、まだ濠洲といふ大陸がボウッとしか知れて居らず、所有主も決つて居らず、その



第二圖　濠洲大陸の沿岸及内陸探險圖

形さへも、はつきり明つて居なかつたといふ事は、是は面白いことで、また驚くべきこと、鎖國三百年の日本などに取つては實に殘念な事であつたと私は思つて居ります。

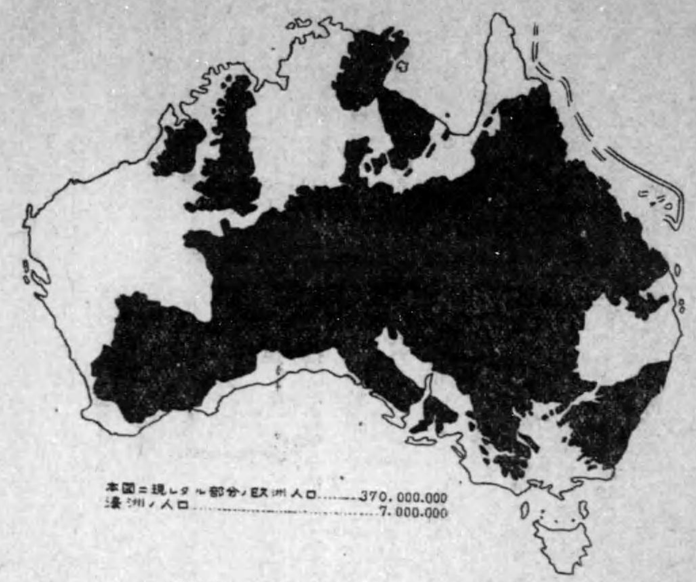
兎に角クックといふ人が一七七〇年に上陸して、ボタニー灣――植物灣といふ名をつけたのは蘭人が匙をなげた濠洲だけに、なか〳〵立派な思ひつきであると謂はなければなりません。今日ボタニー灣頭に高くクックの記念碑が建つて居りますが、此のクックといふ人は、後に布哇群島にも行つて、今日布哇島の一角にもクック記念碑が建つてゐるのは、此の人が太平洋を馳驅した事を物語るものといへませう。

併しそれでも其の後十八年間、英國は濠洲を放つたらかしておつたのですが、一七八八年にキャプテン・フイリツプといふ人が、初めて英國の囚人を伴れて今のシドニーの地に上つて居

ります、シドニーは所謂ポートヂヤツクソンで、これはクックも一寸その灣内を覗いたけれども内へ入らなかつた處ですが、フイリツプはその良港なるを認めて、此處に植民の第一テントを張つたのです。シドニーは世界三大美港の第一でありませう、灣内奥行は僅か二十哩に過ぎませんけれども、その海岸線は實に百八十哩に達してをり、灣内が如何に梯の齒の如き出入を爲してゐるかゞ明ります、その兩岸相迫るところ、シドニーの町を南北に繫ぐ港橋といふのがありまして、橋脚と橋脚の間が四町半もあり、橋の高さ三百六十尺、米國の金門灣頭のそれには及びませんけれども誠に雄大なる光景を呈して居ります。

さて、フイリツプがシドニーに植民を致しました當時の記錄を讀んでみますと、囚人と云ひましてもパン一片を盜んだ、靴一足を盜んだといふ若い子供等も居ります、ですから濠洲の囚人といふのは、そう獰猛なものばかりではなくて、後には囚人の中から非常にえらい仕事をした人も出て居ります。其の時、やつて來た船が十一艘、軍艦が二艘食糧船が三艘、囚人船が六艘、囚人七百人を兵隊三百人に守らせてシドニーに上つたのであります。

斯ういふのが大體英國との關係であります、一體英國は世界に太陽の沒する所がないと云はれる位、領土を澤山有つて居りますが、カナダはフランス人が先に植民した、ですからカナダに御出でになりますと、例へばカナダの東部のモントリオールやクエベック邊にいらつしやれば、道路の標識でもフランス語、デパートもフランス人專門のデパートがあります、さういふ風にフランス人の多い所です、それで英國の本には、カナダはフランス人が先に占領して植民したところ、印度は四千年來インド人の住んで居る文化の國である、また南阿は一八〇六年、英國が占領するまでは、ボーア人の天下であつた。併し濠洲だけは英國人が初めて發見し、さうして本當に立派な植民地に造り上げたのだと書いてありますが、『英國人が發見した』といふのは潛越な言ひ分ですけれ共、今日まではさう言はれても仕



第三圖　濠洲と歐洲の廣さの比較圖

様がないやうな所であつたのであります、尤も世界は、もうすぐ變らんと致してゐるのであります。

次に濠洲の地理や地勢について御話を致しますと、濠洲は大陸であるか島であるか、まあ今日では大陸だと言ふ說になつてゐるやうでありますが、兎に角大きな、此の圖表を御覽になりましてもお分りの通り、ヨーロッパの大部分はすつぽりと濠洲に入つて居ります。（第三圖參照）その長さといふものは南北二千哩、東西二千四百哩、北の木曜島からタスマニヤの南端に至る距離は臺灣から千島の中ばに及ぶだけの長さであります。此の面積は二百九十七萬平方哩で、日本內地の概略十五萬平方哩に對して約二十倍、外地を入れた我國總面積の十一倍位になつて居るかと思ひます。

そうして北は南緯十度四十一分より南は卅九

度八分に及び、大體濠洲大陸の中部を南回歸線の二十三度半が通うつて居りまして、大凡四割は熱帶圈內にあります北の方木曜島は佛印の西貢と緯度を同じくし、シドニーが東京と同緯度、メルボルンが仙臺と福島の間位、タスマニヤの南の端になりますと、北海道の札幌旭川といふ處に當ります。さういふ關係で、北の方は熱帶植物が繁茂し、熱帶特有の果實も澤山出來ますが、南の方は林檎葡萄がよく實るといふ地形になつて居ります。大體から申しますと、日本から見まして、寒さが緩やかで、暑さが幾分强いのぢやないかと思ひます、緯度が赤道を眞中にして濠洲は南半球の地でありますから、季節は日本の反對でありまして、我國の月の數に六を加えた月の氣候に相當すると考へればよいのであります。例へば今は三月に六ケ月を加へて、宛かも我が國の九月の氣候に當ります。來月は四月、日本では段々春になりますが、彼地は六ケ月加へて十月に相當し、段々寒くなるといふわけであります。

一體濠洲といふ所は東の海岸一帶から南にかけて山脈がございます、此の山脈は高い所は七千尺になつて居りますが、東南方からくるモンスーンが此の山脈に打突りまして、雨を降らし內陸には雨が參りませぬ。（第四圖參照）シドニーは年の雨量千二三百ミリあるのに、山脈を越えれば三百ミリ、二百ミリと、西に行くに從つて、雨が全然なくて砂漠になつて居ります。これが濠洲の政治、經濟、產業、文化一切を支配する基本的の條件でありまして、濠洲の如何なる地圖を見ましても、例へば人口密度の地圖を見ましても、學校や敎育施設の地圖を見ましても、農產物、耕作地――小麥產出の地圖を見ましても、羊の密集して居る狀況を見ましても、總べてが東部から東南地方の一帶が非常に濃いことになつて居りまして、後は濠洲大陸の海岸一帶を圍む細い帶狀に幾分の濃度を示すといふ狀況になつて居ります、詰り濠洲は御饅頭の皮みたいな開發と文化の狀況になつて居りますが、その皮が此の邊り、東部及東南部一帶が一番厚いとお思ひ下されば宜しうございます。そして大體の地勢を申しますと、北部には熱帶的森林地帶があ

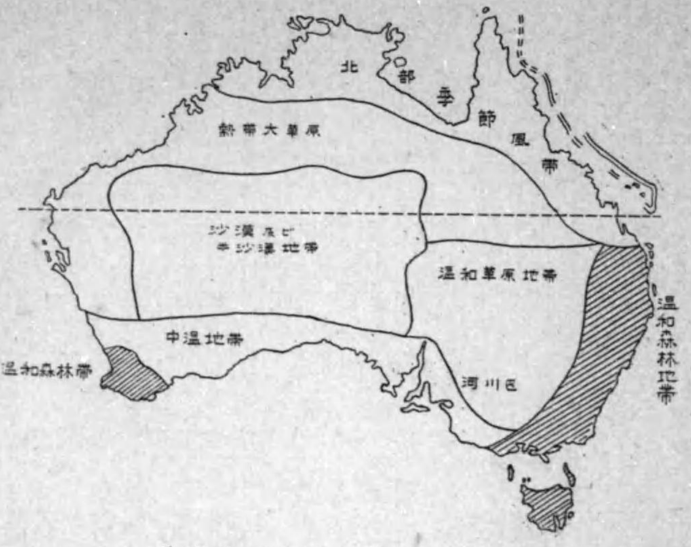
第四圖　濠洲方面に於ける雨を伴ふ風

り、その南は熱帶の大草原地方を爲し、南部東岸は溫和森林地帶、その西方は溫和草原地帶で農耕牧畜に適して居ります、亦その西方は砂漠、又は半砂漠が廣大なる面積を占めて居るのであります。（第五、六圖參照）尤も此の自然の降雨に加ふるに、人工を以てする給水作業も盛のやうです。（第七圖參照）濠洲には大きい鑿井が四千五百ありといはれるのでありますが、鑿井を殖やせば湧水が減ずる傾向ありと謂はれて居りますので、さう無暗に是を殖す事も出來ますまいし、亦鑿井の水は眞に天然のそれを補ふ一少分量に外ならぬと思はれます、何しろ奥地の旅行などには水が少いので、ホテルに宿つて、おい水だと、飲み水を要求した場合に、よくボーフラの居る水を持つて來たなどといふ話があります。處で、ボーフラの居るのは天然水で善い方だと言つて或る日本人は笑つて語るのを聞きました、その位に水は不足勝であります。

濠洲に住んで居る人間は、一九三六年の政府の統計は六百八十五萬といふ事になつて居ります。私恰度八年前に參

第五圖　濠洲の地勢區分

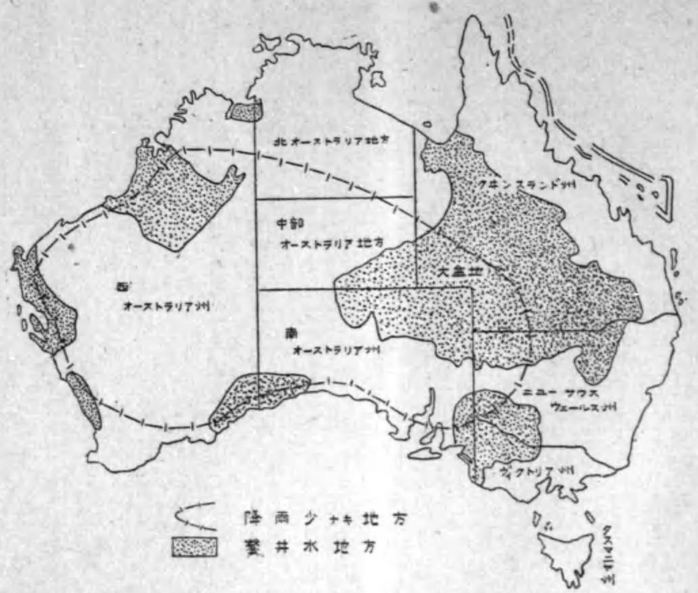
りまして、其の二年位前ですから、今から十年位前の統計になりますが、その年には六百六十三萬六百人といふ數字になつて居たのであります、今日は既に七百萬人の人が居るかと思ひます。此の中には先程申しましたオーストラリヤン・アボリジンも加つて居りますが、その純粹の土人は五萬三千、混血が二萬二千、合せて七萬五千ばかり居るわけです、是は世界最下級の土人だとよく文化史などにも書いてありますがさうであらうと思ひます。東印度ボルネオのダイヤ族に致しましても、金銀糸を入れた、あの美しい腰卷や稻の紋樣には驚くべき立派なのがあります、また比律賓のイゴロテ族に致しましても仲々大した彫刻を致して居ります、濠洲の土人は、紋樣にも何の見る處もありませぬ、その住居は鳥の巣より、もつと下手だといへませう。



第六圖　濠洲大陸の天然區分

さて日本人は戰爭前に二千人位居たと思ひます。支那人は八千人位居ります。併し七百萬といふ人の九割九分迄は白人でありまして、誠に白人の天下、これは他の人種が行かないといふのではなく、人種的に入國を制限致してゐる事は御承知の通りでありまして、所謂白人濠洲主義といふのがそれであります。

それで此の廣大な土地に七百萬位しか居りませぬから、此の密度といふものは極めて疎であります、一九三六年の六百八十五萬人を割當てますると、一平方に、二人二九といふ數字になつて居ります、日本は一平方哩に最近は四百七八十人ぢやないかと思ひますが、ジヤワに至りましては、世界一二の人口稠密國で、これはそれだけの人間を養ふ物産があるからでありますが、あの小さい日本の本州の十分の六しかない所に四千五百萬人、一平方哩に八百廿人の人間



第七圖　濠洲中鑿井水のある地區

が居る、濠洲は今申したやうに二人二九、誠に海一つ隔てて、えらい對照相違を爲してゐるといへませう。

之でも人口が恐しく殖えて居ると思はれるのは、例へば一八五〇年には四十萬五千人しかなかつたのが、一八六〇年、たつた十年の後には百十四萬五千人に殖えて居る、それはどういふわけかといふと、金礦が發見されて所謂ゴールド・ラッシュの時代を作つたからであります。今日でも東部のバララット、西オーストラリヤの砂漠の眞中にあるクールガーディーとカルグールリー、これ等は何れも有名なる金鑛であります。西オーストラリヤの首府のパースから水道の鐵管を引いて水を海岸から奥地へ逆に送つて居るといふところであります。日本でも砂金が出て豆粒程でも偉い砂金であるかもしれないがオーストラリヤは大陸ですから、何でも大きい

今迄に發見された砂金の一番大きいのは一萬二千磅、一匁五圓と致しましても二十萬圓餘の金塊です、こゝにありますのが（寫眞を示す）今迄に發見された金塊の三番目のものですが、長さが二呎、價格は十五萬圓位になつて居る、さういふやうな狀況で、話は人口の事から側路へそれましたが、ゴールド・ラッシュで一時に人間が殖えて來た事もあつたのであります。

そこで、產業や開墾が集約的になりますと、どの位の人口まで殖えるものか、英國の學者の中には三千萬人といひ五千萬人といひ、或は八千萬人を限度とするといふ人もあるやうですが、日本人の考へやうに依つては、八千萬どころではない、もつと養へるかもしれない、いくら三分の一は砂漠又は半砂漠にしたところが、そんな數ではないと思はれるのであります。

六百八十五萬の人間の分布狀態が面白いのです、四十七%、四割七分といふものは六州の首府の人口です。クインスランド、ニューサウスウエールス、ビクトリア、南オーストラリヤ、西オートラリヤ、タスマニヤを以て六州の聯邦を組織して居るのですが、——地圖の上では、北オーストラリヤ地方及中央オーストラリヤ地方といふのがありますけれども、人口稀薄で獨立の一州としては立ち行きませんので、これは聯邦の一州ではなく、聯邦政府直屬の統治地方になつて居ります——それ等の首府即ちブリスベーンは三十二萬、シドニーは百三十萬、メルボルンは百萬、アデレードは三十二萬、パースは二十二萬、ホバートは六萬、合せると三百二三十萬で四十七%になる、其の他聯邦の政府のあるキヤンベラが二萬、その外ニューキヤツスルや、タウンスビールやギーロン等の都市を合せれば都會の人口は總人口の五割を越ゆると思はれます、さういふやうな狀況でありまして、都市に人口が集中して居ります。

產業のことを申上げますと、割合工業が盛であります、鐵工業も盛ですし、鐵や石炭が相當出ます。食品工業も盛

ですし、織物工業も相當あります。其の他色々な工業がある、是は英國の植民地カナダなどと同じですけれども、なにか此の土地の人が工業を起しまして、それが少さく芽生えでもすれば、それに對しては極端な保護關稅を加へますから、其の工業といふものは室咲きの工業でありますけれども、兎に角仲々發達して參ります。それで、工業は頭拔けて大きい產額になつて居りまして、日本の今の御金に換算するならば、工產品は五十五億圓位になつて居ります、其の他羊並に酪農製品が十九億圓、農產物は小麥、小麥粉を主として約十億圓、鑛產品三億六千萬圓、林產品が九千萬圓、水產物が二千五百萬圓といふ事になつております。

併し是は濠洲本位に見た物產の分け方で、今申上げた通り工業は室咲きの工業みたいなものであつて、其の土地の人の爲めの工業でありますから、多少外にも出ては居りますけれども、外から見て、例へば日本から見て、濠洲の產業は何かといふことにつき、その輸出高を見ますると、牧畜品が第一番に來まして、十一億圓、內譯を申しますと羊毛が八億四千萬圓、肉類が一億三千五百萬圓、酪農製品——バタやチーズ、ミルク、クリーム等が一億二千萬圓、次に農產物が四億圓、是の內譯は小麥が二億四千萬圓、小麥粉七千六百萬圓、砂糖三千九百萬圓、是は此の熱帶地方に出來ます、果實、先程申上げたやうに南の方タスマニヤやビクトリアに行きますと、林檎や葡萄や其の他の物が澤山出來る、その果實製品が六千七百萬圓、其の他鑛產物の輸出では金が一億五千萬圓あるかと思ひます。それから銀も一千萬圓位輸出される、ブロークンヒル是は世界的に名の知れて居る銀礦かと思ひます。

元來濠洲は小麥と羊の國で、小麥では世界の九番目、しかし人間が少いから輸出力は仲々大きい、羊に至りましては絕對的の力を有つて居るわけです、羊の數からいひますと、ロシアは第一だ、濠洲より多きいといふことを云ふ人も居りますけれども、ロシアの羊は山羊などが多く居りまして、本當にいゝ毛は獲れないのです、濠洲の羊は大體毛

を獲る爲めの羊が多く、肉を獲る爲めの羊は極めて少いのです、メリノと言つて、柔かい細かい毛を取る緬羊が一番多いのです。そして緬羊の總數は實に一億一千五百萬頭と云はれ、是も先程申しました一七八八年に初めてフイリップが來ました時に、兎を持つて來た、鷄も持つて來た、牛何頭、馬何頭を持つて來た中に、羊は二十九頭持つて來たといふことを言はれて居ります。其の後緬羊の改良の爲めに、二十頭、三十頭入れたことも度々ありますけれども、大體二十九頭が基になつて居りまして、百五十五年の間に一億一千五百萬頭といふものになり、世界の羊の六分の一を占めるに到つた、而も毛の分量から云ひますと、世界の四分の一といふのですから、仲々大した羊毛の生産と云はなければなりませぬ。

一體羊といふものは多産なものぢやないといふことです。十二三歳迄生きて、生殖力は十歳前後だらうと思ひますが、七割位は年に一匹しか生みませぬ、後三割は双子を生んだり、三つ子を生んだりといふのですから、繁殖力は大きいわけぢやないのですが、それで一億一千五百萬頭といふ大きな數字になつたといふことは、仲々驚くべきことだと思ひます。此の羊飼ひの本陣は「ステーション」と謂はれて居りまして、仲々豪奢、且つ大規模のものらしうございます、プール、ゴルフリンクを備へ、電氣瓦斯は自ら起してゐる。出づるに幾豪かの自動車あり、五十哩、百哩を飛ばすのは日常事であります。廣漠たる濠洲の事でありますから諺にも『ダンスに五十哩、醫者に百哩』と謂はれてゐます。羊の數は千頭、二千頭といふのは少數の方で、一萬頭、二萬頭、中には五萬頭以上のものも相當ある、尤も五萬頭以上といふやうな、大飼羊業者は次第に減る傾向にあるといふことを言はれて居ります。

そこで羊の毛を刈るのに、あの毛の多いメリノ、本當に毛の中から生まれて來たやうな、恰好をして居ります羊でも、若し毛並がよくて腕の達者な刈手だと、一日に二百頭を刈ると云はれて居ります。毛並が惡くて腕が達者でなけ

れば一日に百頭位だと云はれますが、人間の頭でも百人刈つたら、えらいと思ひますのに、羊の毛を二百頭刈るのですから、電氣バリカンで刈るとは言ひながら、兎に角大變なものと思ひます。

羊の一番敵と云はれるのは旱魃の爲めに草が干れる事ですが、近年は旱魃で一時に何千頭も斃死することは無くなつたといふことです。犬でヂンゴーといふ、賢い顏をして居る丁度日本犬そつくりの野犬が居りまして、是が隨分羊を嚙み殺す、これはマンモスの骨と一緒に出てくる。濠洲では古い動物です、案外優しい奴で害をなすのは兎です。兎はヂンゴーと違ひ、初めは全然濠洲には居らなかつた動物です、やはり一七八八年にフイリップが五匹伴れて來たと云ひますけれども、その五匹の兎は別にしまして、一八六〇年にギーロン市の近くのバーロン公園といふ國立公園のやうな處に愛玩用として兎を二十四匹伴れて來た人がある、どうもその兎が近くの野山に殖えて仕樣がないといふので、六年の後に兎狩をやつたところが二萬頭獲れた、日本などでは想像もされぬ事でありまして、羊と違つて兎は鼠算で殖えるとはいへ、六年の後に二萬頭獲れたといふことは、如何にも濠洲らしい話です、このやうに兎が今でも各地に蔓延して居りまして、羊の生命であります草を食ふ、これが羊の大敵となつております。

濠洲の樹木はユーカリ一色で被はれてゐるやうなものでありますが、汽車で旅行を致しますとその大木が方々に枯れて居ります、それは、どうかすると故意に燒いたやうに見えますが、實際故意に燒いておりますので、大木があつては其の下に草が生えない、草を生やすといふことは、羊を飼ふ上に一番に必要なことですから、それでさういふことをするのです。

日本は日支事變の起ります前までは羊毛を濠洲だけに依存して、その後ニュージーランドや南阿からも多少入れましたけれども、今から五六年前は濠洲にのみたよつて居つたのであります、その頃一億一千萬頭居ります中の二割强

二千二三百萬頭分位、俵にして七八十萬俵を買つて居つた、英國は二千七八百萬頭分買つて居た、ドイツが日本より少く、日本は英本國に次で實に第二位の羊毛買手であつたのであります。

日本にどの位の羊が居りますか、五六萬頭居りませうか、山形、岩手、北海道に居りませうが、これを殖やして行く〳〵は五六百萬頭飼ひたいといふ意向らしいのです。滿洲では三十年計畫で千五百萬頭飼ひたいといふ意向らしいのですが、滿洲あたりは土地も廣いのでありますけれど、內地では五六百萬頭飼へるでせうかどうでせうか。これは素人の杞憂でせうけれども、兎に角濠洲と違つて狹い日本の農村の事ですから心配です、私は昔英國へ參りました際面白いと思つたのは、英國全體は殆んど工場のやうなものです、全體が工場のやうな所にチョイ〳〵野原がある。詰り野原の眞中に工場があつたり、工場の隣りに野原があつたりする。これは妙な光景だとよく考へて見ると、英國には二千五百萬頭位の羊が居つて、その毛があれだけの羊毛工業の一部になつて居る、さういふことから考へると、廣い野原がなくちやならぬぢやないか、日本が果して飼へるかどうか、是は素人の心配して居るだけの話です。今に濠洲から、羊毛が來るかも知れませんが、身近かに出來得るだけの生產も講じなければなりません、そして軍需用のものだけでも之を確保する事に致さなければならぬ事は勿論であります。

社會狀態について、濠洲といふ所は、私は何時も云つて居りますが、一割はアメリカ式の新しい所、後の九割は英國式の古い所です、例へば町を歩きますと、シドニーには早くから立派な地下鐵もあります。デパートも東京のデパートと同じ位の數で、規模は東京のデパートより大きいのもあります。アメリカ式の均一店も、その名もウルウオースといふ名のものざへあります、それからセルフサービスの食料品店のやうなものもあります、映畫も日本に入る前にアメリカから入つて居ります、さういふことから考へると、伸々新しいアメリカ式の所が見えますけれども、非常

に又古い所がある。

是は濠洲の成立から云はなければならぬが、濠洲といふ所は、昔はニューサウスウエールス一州しかなかつたのです、それが段々殖えて三州四州となつて六州の聯邦に殖えたわけです、さうしますと一つの塊から次々發達して來たやうで、なか〳〵融合した強い一つの國家とも考へられるのでありますけれども、實際は逆であります。濠洲といふ所は、各州それ〴〵違つた植民の歷史を持つて居りまして、シドニーが百五十五年前、メルボルンが百八年位にその發生の歷史を有し、各々その歷史を誇り、相讓らず、聯邦の首府さへも、遂にキャンベラといふ、廣野の一小都市を創設して、持つて行つたやうな次第であります。そしてその聯邦は何時出來たかといふと、今からたつた四十一年前仍ち一九〇一年のことであります、その年に郵便制度が一つになり、關稅制度が一つになるといふことになりましたけれども、併しクインスランド州の鐵道といふものは今でも三呎六吋、ニューサウスウエールス州の鐵道は四呎八吋半、ビクトリヤ州に行きますと五呎三吋の超廣軌、南オートラリヤに行きますと三呎六吋と四呎八吋半と五呎三吋の三種が三方面からゴチヤ〳〵には入つて來てゐるといふ風に、今でも不統一そのものでありまして、シドニーからメルボルンに參りますには僅か百七十哩の事ながら、途中で乘換へねばなりません、總べての狀況がさういふ風になつて居りまして、社會の狀況を見ますと伸々古い所があるのです、自分は自分、人は人、英國人の個人主義と階級思想と宗教上の習はしから、生れ出てゐる唯我獨尊と階級觀念とが凡てを支配致して居ります。

加ふるに非常に婦人と勞働者の權力の强い所でありまして、八時間勞働の布かれたのは古いことであります。一八七三年、今から七十年も前に先づ婦人の八時間勞働が布かれて居ります。其の後改正されて、今日では一週間に四十四時間勞働です、といふのは土曜は十二時迄といふのです、所が土曜に四時間工場の門を開けておいたのでは、うる

さくて不經濟だから、土曜は休みにしやうぢやないかといふので、月火水木金で一週間五日四十時間といふのが流行つて居ります、强制ぢやないでせうが、さういふやうな狀況になつて居ります、ホテルにしても、ダンス場に行けば別ですが、普通の食堂では午後七時半過ぎは夕食のサビースは御斷りとある、町に行きますと、六時にピタリと閉める、日曜は新聞は勿論發行致しませぬ、電車も午後遲くなつてからソロソロ動き出す、街頭の有料便所は閉めてあるから、日曜には便所にも行けませぬ。

勞働者の賃金は、基本勞働賃金といふものがありまして、二十歳になれば、如何なる青年でも、何の技術を有たなくても、その定められたる基本勞銀は貰へる、これは州によつて幾分違つて居りますが、シドニー邊では一週間三磅十五片、濠洲磅を日本の金に換算して一週約五十圓、月に二百二三十圓になるのぢやないかと思はれますが、それだけは得る權利があるのであります。勞働委員會があつて、勞働委員會のない所は勞働者はこれが設立を請求する權利も持つてゐるのであります。

社會施設を申しますと、子供が一人生まれれば四磅、二兒生まれれば八磅、寡婦になりますと、十四歳以下の子供を抱えて居れば、一兒に對して一週間に十片、此の寡婦さんには一週間に一磅、この邊の數字は最近いくらか違ふか知れませんが、大體大した相違はないかと思ひます、それから六十歳以上になつた婦人、六十五歳以上になつた男は年に五十二磅、盲人になればいくら貰ふ、怪我をすればいくら貰ふ、失業すれば貰ふ、シドニーの市役所に行つて失業したと云へばくれる、その郊外の何村へ行つて、失業の屆けして亦貰う、そういふ不德漢も出るわけです。ですから私の參りました時には、斯やうな誤間かし屋の檢査をする爲めに、檢察の委員が市役所に澤山增員されて、亦經費も嵩むといふので、騷いでおつたやうなわけであります、行き屆いた中に、言ふ可らざる英國流の世智辛い世相が胸に迫るものがあるやうであります。

是が爲めに物價は非常に高い、鉛筆一本でも二十錢はする、物價や勞金が高い爲めに、關稅を上げられても我國から品物を出せたわけですが、關稅や消費稅もなか〳〵高い。日本の船が木曜島に參りました時に、此の船にはビールは幾何、お酒は幾何、清凉飲料水はいくら持つて居るかと調べる、ブリスベーン、ジドニー、メルンボルンの港々を通つて往き來して歸へるのですが、一月位は濠洲に居る事になる、すると歸航の時に、また木曜島でお前の船はいくらお酒が減つたか、ビールはいくら減つかといふので、消費した部分に對し、稅金をどかんとかけるわけです、私達個人にしましても、歸國に際して日本郵船の代理店に行つて、切符をくれと言ふと、納稅部へ行つたかと聞く、まだ行かない、それぢや先づ其處へ行つて稅を納めて來てくれといふ、私は公用旅券で納稅する必要はなかつたのですけれども、商人でもありますと、いくら商賣したか、いくら商賣した、ぢや幾何納めろといふ、いや自分は會社の社員で自分の商賣ではないといへば、それでは君は幾何月給を貰つてゐるかと聞く、いくら〳〵貰つて居る、少い月給だな、それでは幾何納めて行けといふやうに、なか〳〵見遁さないで稅金をかける、それでないと船の切符も賣りませぬから、歸りもならぬといふわけであります、關稅の稅金に致しましても、唯三割だ、百圓だから三十圓といふのは大變な間違ひ、三十圓の倍六十圓位かかると思はなければなりません。三割といふのは本稅、それにプライメージタックスが一割、併せて四割です、それに高い販賣稅をかける、それも商品になる本品だけではなくて、これを入れて行つた包裝の木箱にも同樣にかけるのです、また型錄でも入つて居れば、その型錄にもかける。

さういふ風な狀況でありまして、濠洲といふ所は百五十五年前に初めて移民され開國された所ながら、既に老耄れてしまつた形です、それで私は濠洲を若年寄の國だと言つて居るのです。潑剌とした國民の氣象がない、盛り上る國

民の力が感じられない、融合した國民の團結が見えない、まあ戰爭などに對しては、何の强みもない國だといふ事に結論されると思ふのであります。

私の基本的の話は此の位に致しまして、あとは岩崎さんに御願いたしたいと存じます。

濠洲最近の情勢

商工省囑託　岩崎實太郎

最近の濠洲情勢といふ題の下に、濠洲の經濟貿易政治等に就いて最近の情勢を述べるやうにとの御話でございますが、濠洲の一般事情に就いての說明は、今安本さんが一時間餘に亘つて御話になり、それで大體盡きて居ると思はれますので、私は濠洲の特異性とか大東亞戰爭と濠洲の關聯性などをも、時局柄特につけ加へて申述べて見度いと思ひます。

私は實は香港、馬來、英領印度、泰、南亞等から南米に渡つて亞爾然丁、智利に約五ヶ年滯在し、歸國後商工省から貿易の遊擊隊員として濠洲シドニーに派遣され、計らずも十八年の長い間、彼地に駐在することになつたのであります。

右二十數年の間資源豐富な熱帶地赤道附近と南半球の諸地方で、英國領有地は素より第三國でも、海運陸運商工鑛其他產業金融から財政の部門に至る迄英國の勢力が浸透し、然も其專横振りを如實に見せつけられ、初めの驚嘆は遂

に反抗心をも起させるやうになり、强力を誇つて到る處で横車を押す英國勢力を驅逐せねば、所詮世界に眞の平和は來ないと思ふやうになつたのであります。

濠洲は御承知の通り英國の屬領で、今日本にとり純然たる敵國であります。白濠主義を無遠慮に唱へ、日本人其他有色人種の入國を固く禁じて居る爲め、土地は我國の十一倍餘もあり乍ら人口は僅か七百萬人、六百七十八萬の一東京市に少し計り多いのにすぎません。七百萬の總人口中九割五分——六百七十萬人が一民族即ちアングロ・サクソン人種であることを非常に誇りとし居りますが、濠洲を統治する英國人とは一體どんな特性を有つて居りませうか？

彼等は自ら正義人道の守り本尊の如く唱へて居るが、實際は弱者に對しては慘虐非道惡辣貪慾の限りをつくし以て平然として搾取し、特徵としては我慢も强いが押しも强く粘着性にも富んで居る。が然し何と申しても彼等最大の特性は狡猾な點で英帝國をして七つの洋を制させ、大東亞戰迄大帝國を築き且つ維持し得た最大要因をなしたものと思はれます。頭腦の好さの點では世界中英國人以上優れて居る民族は多々あるやうですが、英國人のやうにずるい事、だます事、惡るい事などを良心にはぢ敢へて行はぬため英國にしてやられたのではありますまいか？　從つて英國人に對する場合、大國民の襟度とか同情の安賣は禁物で嚴に慎まねばなりますまい。大東亞戰爭の結末に就いても、實戰に勝つて實質的戰果を取逃すことのないやう英國又は共同盟國との交渉に當り細心の注意が肝要でせう。

前に述べたやうな英國人と其子孫の住む濠洲も、東亞共榮圈外廓として大東亞戰爭の進展に連れ我國民の關心は愈々增して參り、我國は濠洲を如何に處理すべきかといふやうな問題が起つて來まする關係上、話の順序を替へて結論のやうな事から先に申上げて見ませう。

先づ第一に濠洲攻略の緊要なこと、何故にか、攻略後はどう處理したらよろしいかといふ事にも觸れる必要があり

ませう。

濠洲は原料品、食料品の輸出國として知られ羊毛、小麥、小麥粉、肉類、酪農製品等が戰前日本圏ブロック共榮圏諸地方へ相當多量供給されてゐました。羊毛が確保出來れば日本でスフの必要はなくなるでせう。尤も羊毛だけなら面積の狹い小ぢんまりとした新西蘭を掌中に收めれば九十萬俵位は得られ、日本と共榮圏の需要には充分でありますから、土地が我國の十一倍にも當る大きな濠洲を何も骨を折つて攻略する必要はないのですが、新西蘭は小麥が漸く自給し得る程度の產額しか無く、不作の際は却つて濠洲から輸入するやうな次第です。今の我國にとり切實な問題は我國の勢力下にある圏ブロックと共榮圏諸國の食料供給問題でせう。該諸地方の住民を食はす爲めには、どうしても濠洲から第一に小麥粉を持つて來、其他濠洲產乳製品、肉類等をも移入する必要があります。つまり少なくとも小麥と羊毛資源獲得の爲めに、是非濠洲は制壓しなければ眞の共榮圏は構成出來ないのです。尤も濠洲を獲れば共榮圏等の食料問題の一部は解決し得ても濠洲人に衣類を着せなければならず、それには印度の棉が多量に要るといふやうな厄介な問題も起つて來るのです。

日本が經濟上濠洲を必要とする以外に、濠洲が必然的に日本に反抗し水と油の如く我國と相融和する望みの少ないことは今後の對策上頭に入れて置く必要があります。移民通商經濟開發等總ての經濟問題に、遺憾乍ら濠洲は從來我國排斥の措置を採つて參つたのであります。一九〇一年以來白濠主義を唱へ平時我々日本人其他有色人を劣等人種と侮り入國を禁止して居つた位ですから、今度の戰爭でも濠洲は容易に日本に頭は下げますまい。北部ヤムピサウンドの鐵鑛開發にも始め許可し乍ら採掘開始以前鑛石の輸出禁止を發令し、又濠洲自身の貿易發展上日本に共產物を澤山賣り度いが日本品の買入れは阻止しやうといふ勝手な措置を採つた爲め一九三六年には日本と濠洲との間に貿易上の

紛爭が起り日本は通商擁護法を發動し半年間貿易が止まつたことは皆樣御記憶に新たな事と存じます。尤も是等濠洲の日本排斥政策は總てが濠洲自らの發案ではなく英國に使嗾され日本に反抗して英國の爲めにはなつても濠洲の不利益となつた事は多々あるのです。

新嘉坡は濠洲國防の第一線として、ゼリコー提督が濠洲へ行つてから、力瘤を入れ莫大の獻金をして不落の要塞としやうと努め、あわよくば是を日本進攻の基地に利用する肚であつた爲めか、新嘉坡から南には大した防備もせず、僅かに英獨開戰後濠洲の北部ポートダウイン防備を强化した程度であります。從つて馬來に新嘉坡に敵兵としては濠洲兵はよく戰つたと申されますが、今では馬來、新嘉坡も更に蘭印も失陷し、據る可き强力な軍事據點が殘つて居らず、英本國增援の望みがないにも不拘、米國に賴つて果無い抵抗を續けて居るのです。濠洲は結局は日本軍を送つて攻略しなければ頭は下げて來ますまい。食料は豐富に產出しますし、油は無くとも馬や薪炭で補充も出來やうし、放任して置けば何時迄も抗戰し續けるでせう。シドニーが落ちてもメルボルンに、メルボルンを失つても、ナデレイド（南部）パース（西部）又は東の新西蘭へ逃避しませう。

第一次歐洲大戰には日英同盟の誼みといふことで、我國は濠洲番犬の役目を演じましたが、戰爭が終つてからは、日本に對し實に非道い忘恩の態度を無遠慮に示したのであります。即ち濠洲兵と濠洲產物の歐洲方面護送と濠洲防衛の任に當つたのですが、戰爭が終り、ヴエルサイユ講和會議の際には掌をかへすやうに反抗態度に出で、濠洲代表ヒューズ氏は逸早く日本にも移民門戶の閉鎖繼續を强調し、又地中海南亞方面防衛の任に當つた我艦隊の兵隊を歸還を前にして南亞のケープタウン市に上陸させやうとした所が、南亞總督と市長が我軍艦に司令長官を訪ね、言葉と態度は慇懃でありましたが、日本の兵隊さんが上陸なさる時には護衛兵をつけませう。然し帶劍は遠慮願ひたいと申入れ

たさうです、司令長官船越將軍は怒りまして、日本の兵隊に護衛兵は要らぬと應酬した、といふやうな氣持の惡るい事も數多あつたのであります。

英國の惡くどさは今も昔も變りません。メルボルン地方を掌中に收めるにしても、フイリツプ船長は、當時有力な土人とは戰ふことを避け、該地方の租借を土人と協定し、移民を送つて侵略の目的を達し、又新西蘭にしても、初め原住民マオリ族と戰ひ、敗北しましたが媾和條約を結び英國移民の入國を承認させ、實は便衣で兵隊を移民として送り、濠洲同樣土人を欺いて攻略したのであります。

去る三月二日シドニーデイリーテレグラフ紙のマクアルビン氏と倫敦デイリーエキスプレス紙のリチヤーズ氏の時局問答で、濠洲のマクアルビン氏は吾々は一日たりとも濠洲の土を日本軍に蹂躙させ度くないのだと今尙憤たらしいへらずロを叩いて居るのです。海軍報道部の平出大佐は、三月十二日如何に困難でも此戰爭で印度と濠洲を制壓しなければならない、そうしなければ禍根を再び我子孫に殘すのだと濠洲攻略の緊要な事を張調されました。私が曾つて滯在したことのある某國に駐在された武官某氏は、其後出世なされて支那某方面最高指揮官の重職につかれたことがありますが、其將軍は私が十八年前シドニー赴任に先立ち逢ひました所、結局は濠洲は頭をがーんと撲らなければ正當の話はわからず、駄目だと申されましたが、此間會談舊情を溫めました際、日本が攻略後濠洲人が頭を下げて來たらば歸化を許すかと聽かれたのですが、私は英國人、濠洲人と長い間接觸して親友をも持ち、彼等の特質を知つて居るし、政治的には前にも擧げたやうな數々の不信行爲を曾つて敢へて行つて居るのであるから、それはいけない、飼犬に手を咬まれぬやう用心しなくてはいけないと答へたやうな次第であります。

私は滯在が長期に亘つたので妻子を連れて大東亞戰爭の初まる、すつと前にシドニーを引上げ歸つて來たのですが

開戰當時も尙シドニー附近に居りました同胞は、今シドニー市を西に二百哩程離れたオレンヂ市に監禁されて居り、元の蘭印方面からも同胞多數が南部アデレイド市に收容されて居ります。是等氣の毒な兄弟達を救ひ出す爲めにも早く濠洲を片付けて貰ひ度いものです。

惟へば狀勢も急轉したものです。今度の戰爭迄は濠洲在住同胞間に、此の次戰爭があつても恩知らずの濠洲の番犬となるなといふのが合言葉であつたのです。シドニー生れの四人の子供は、再渡航の際の便宜上濠洲人としての（濠洲は屬地主義を採用す）市民權を獲得する爲め出產證明迄も貰つて來たのですが、今や狀勢は一轉して、濠洲が我制壓下に移り右證明書が不必要となる日の近いであらうといふ事を思ふと感慨の深いものがあります。

さて濠洲を攻略したなら、其後はどう濠洲を處分したら宜敷いでせうか？　それには當然應急策と恒久策とを考へねばなりますまい。有史以來の大規模な戰爭で人と物の缺乏時代ですから、應急對策としては、濠洲に現在ある物住んで居る人を不取敢活用することが賢明でせう。短いとは申せ百六十年間の羊毛、小麥、畜產業其他諸產業の經驗を利用することが肝要です。然し恒久策は自ら異るものがあります。と申すのは、今度の戰爭で我國の攻略地として、香港、馬來、新嘉坡、比律賓、蘭印、ビルマ更に印度を加へましても、是等諸國には敵性英米蘭人等は少數居住して居るだけで主要部分は土人であります。從つて攻略後も經營は是等原住民族にやらせ、日本は後から操縱すればよいのですが、獨り濠洲だけは特異の存在で、國の面積は實に廣く印度と比べましても倍程もあり、今次戰爭での攻略地又は攻略豫想地として最大な國でありますが、人口はと申しますと僅々七百萬人にすぎないのです。人口の數だけから觀れば處分は、むづかしくはない筈ですが、厄介な事にそれは全部が全部敵國人です。アングロ・サクソン人種なのです。容易に日本の統治に服從しないでせう。

從つて恒久策は容易なものではなく、今から考究して置く必要があります。其の第一策として濠洲人以上同胞を移植し數で制壓することです。第二に苛斂誅求して濠洲人を國外に追出すこと、差別していけないなら日本人にも同じ重税を課して、後補助金其他の形式で日本人にだけ拂戻してやること。第三には蹲和條約に自國船で濠洲人を搬出させるやう取極めること。假りに加奈陀へ持つて行かせるとして、中型船一隻三千人積込年三四回往復として一船一年一萬人、八十隻で八十萬人、十年間に八百萬人に總計しますが、現在の七百萬人全部を送り出す迄の自然增加八十萬人をも豫測したためです。歸りに日本に寄港させ日本の移民を濠洲へ運ばせれば尙妙です。右に擧げた恒久策の三案が濠洲に關心を有つ人々に依り提案されて居りますが、必ずしも一本立てとする必要もなく、二本立、三本立に綜合施策するのもよいでせう。

今度我軍が占領した東亞共榮圈の諸地域は概して暑い所が多く、濠洲も亦常夏の國のやうに思ふ人も無くはないのですが、實際は反對で濠洲は大體日本と同じやうな陽氣で、殊にシドニーの如きは暑さも寒さも嚴しくはなく、夏は東京と同じやうな氣溫ですが濕氣が極く少ない爲め汗が發散し、秋から冬にかけ雨が降りますが冬雪の降つた試しがなく霜の降りるのも數ふる程なのですから住み心地は大變宜敷いのです。メルボルン、ブリスベン等其他五州の首府も寒暑の差は多少ありますが、概ね好い氣候といへるでせう。海岸地方は一體に雨量が相當多く、奥地に入るに從つて降水量は減りますが、それでも今濠洲人が居住し、產業に從事して居る諸地方は、日本人の移住に氣候の上で適して居る計りでなく、惡るい風土病も流行病も無く、地下地上の產業資源も豐富であり、其上生活標準の低い土人が產業勞働者として主に働いて居る南方諸地方と異なり、日本內地以上に高い勞銀制度のもとに高い程度の生活を營んで來た白人勞働者の幅を利かせた國なのですから、我國が濠洲を制壓し終つたなら、丁度滿洲國移住拓士の分村計畫を大規模にしたやうな「分國計畫」のもとに、日本の人的資源を分割し今の濠洲に第二の日本國を築き上げたらどんなものでせう。直ぐに出來なければ自然增加の百萬人宛でも每年移植したなら、二三十年後には立派な「南日本」が育成現出、中間の貴重な熱帶資源を「北日本」と鋏み合はせ、開發利用、防衛すれば、眞に「大日本」の國力は世界に冠たる偉力を發揮し得るでせう。

今度の大東亞戰爭で濠洲をどうするかといふやうな將來の希望や計畫等に就いては此位にして置き、次には今迄の濠洲はどんな國であつたか、政治經濟貿易等の諸部門に亘つて最近の狀勢と特異な點をも御話し致しませう。

廣大な土地に住民が少ない關係上、濠洲には立法行政機關が人口の割合に多いのが特に目立ちます。一つの濠洲聯邦は六つの州に分たれ、聯邦にも六州にも英帝を代表する七人の總督が常駐し、立法機關の下院は七つ、上院は六つ（ブリスベン市を首府とするクキーンスランド州は上院廢止）議員數は六百九名、聯邦政府と六州政府の大臣に至つては實に七十三名の多きに上つて居ります。

歐米文化の中心地と遠く離れた新開地濠洲は、デモクラシー國として政治上特殊な方向に、進んで來たといへませう。選擧制度にしても早くから發達し、八十四年前既に普通選擧制度が布かれ、現在七百萬の總人口中四百萬人の男女に選擧權が與へられて居ります。

一九〇〇年濠洲聯邦制度が布かれ、國防、遞信、關稅、外交等は聯邦政府に統一され、白濠主義も國產保護關稅政策も、濠洲全體の國策として採用されました。大きな州の利益の爲めに小さな州の利益が犧牲に供せられるといふので、西濠洲とかタスマニア州とかの分離運動も時々擡頭するやうです。聯邦となつてからも濠洲の首府はメルボルン市に置かれましたが、シドニー人が反對した結果、兩市の中間に新首府を設けることとなり、シドニーから二百哩メ

ルボルンから四百二十九哩海岸から七十五哩離れた山林中のキャンベラ村に首都を新設し、議事堂、諸官衙、總督高官々邸、官吏住宅ホテル商店街迄も作り、一九二七年に遷都は一應行はれたのです。

濠洲は御承知の通り英國の一屬領で、政治上の全權は英國々王に、國王の代表として總督が代行することになつて居りますが、一九二六年の英帝國會議では濠洲の制定した法律には英國は拒絶せぬことに協定され、實際には濠洲の政黨責任內閣が行政して居るのであります。餘程非道い事をしなければ總督は責任內閣の行政拒絶權を行使しませんが、十年前にはニューサウスウエールス州の勞働黨內閣で、ラング首相が公債利拂不履行其他相當極端な財政恐慌對策を敢行したといふので、ラング內閣を州總督が罷免した例があり、是れが私の滯在十八年中に見た總督の責任內閣に對する最も强硬な態度表示であります。

濠洲は由來ナショナル黨と勞働黨との二大政黨が相對立し政權を爭ひ、第三黨として農民を代表する地方黨が存在するが微力で、概ねナショナル黨と聯合して組閣するのが通例でした。ナショナル黨は時流に應じて濠洲黨と改名、現在では統一濠洲黨と呼ばれ、社會の各層を代表し、其政策は英本國依存で英本國本位であるとの非難もあります。自由主義的な色彩を加味した保守黨に似た政黨とも云へませう。聯邦勞働黨は勞働同盟を背景とし、勞働者の利益を代表することは黨名の示す通り當然ですが、其の政綱は生產分配等の社會化にあり、施政は濠洲本位に濠洲人の濠洲を建設し、軍備は一層空軍に力を入れ濠洲兵は濠洲の防衛に專任せよと主張します。一九二九年前例を破つて濠洲人アイザック氏が濠洲總督に任命されたのは、スカリン勞働黨內閣の時でした。

勞働の八時間制が早くから實施され「八時間記念日」が公休日となつて居る國だけあつて、勞働同盟は早くから發達し、筋肉勞働者の組合ばかりでなく精神勞働者の組合も亦强大な勢力を張り、學校の先生の組合迄も出來て俸給の引上等が決議される程でありますから、勤勞階級の御機嫌を損はぬやう反勞働黨の政黨でも大いに努める結果、勤勞者の俸給賃銀待遇方法等が年々著しく改善され、勤勞者の樂園が出來上つた次第です。政黨は前に述べました比較的保守的な統一濠洲黨でも、平時には勤勞者の投票を得て概ね政權を掌握するのが通例です。然し一度濠洲が經濟上政治上國難的な悲境に逢ひますと、假令それが其當時の政府の治政上の過誤に基因しなくとも大衆に嫌はれ、濠洲黨地方黨の聯合內閣は倒れ、代つて勞働黨內閣が出現するのが例です。從つて濠洲勞働黨は何時も貧乏籤を引き、一九二九年のスカリン內閣は財界恐慌時に、一九四一年十月成立のカーチン內閣は眞に濠洲の國際的國難に直面し、其苦衷たるや洵に察するに餘りがあります。

右のやうな理由で、濠洲は現在勞働黨が政權上優位を占め、聯邦は黨首カーチン氏を首相とする勞働黨內閣が昨年十月組織され、シドニー市が首府のニューサウスウエルス州、ブリスベン市のクキーンスランド州、パース市の西濠洲、ホバート市のタスマニア州等も同樣單一勞働黨內閣で、メルボルン市のヴイクトリア州は勞働黨と地方黨との聯合內閣、アデレイド市が首府の南濠洲一州だけが勞働黨の反對黨である統一濠洲黨が政權を掌握して居るだけであります。

總選擧戰中演說には黨首でも三B移民排斥などを强調し、ブラックの黑人、ブラウンの褐色人、ブリンドルの斑點人などと惡口を加へ、白濠主義を高唱し、勞働者に職を與ふる爲めに、產業を保護發展させる爲めに、關稅を重課せよなどと、濠洲黨でも勞働黨でも、關稅政策移民政策白濠主義維持には强弱の差こそあれ、主張する政策には變化なく、只對英本國政策とか國防政策乃至は財政々策等に多少主張に異なる所がある位ですが、勞働黨と雖も在野當時の異なる政策も、一旦政權獲得後は、拔本的に急變する程過激な措置は採らず比較的穩健なのであります。

政治の話はこれ位にして産業方面に話題を轉じますが、濠洲は英國の屬領でありまする關係上、英本國としては自國に都合の好いやうな産業を濠洲に起させ又維持させやうとする傾向があります。其の爲め英本國政府と濠洲政府とは産業上必ずしも意見が一致しないのであります。英本國と致しますれば濠洲は食料とか原料を生産して母國へ送れそして製造工業品は英國から買へと主張します。所が濠洲といたしますれば、第一次歐洲大戰に際し、製造工業品が英本國其他から入荷しなくなり非常に困り、生活必需製品を海外に依存するのが國策上いけないといふことを痛感した計りでなく、製造工業品が國内で自給出來ないのは白濠主義で威張つて居る白哲文明國としての誇りを傷け、國の體面上も恥かしいといふ自尊心も手傳ひ、又歐洲大戰中に勃興した諸工業が戰爭が終つてから經營難に陷つた結果、是非共製造工業は維持發達させ度いとの念願が強くなり、是れが全國民の支持する國是となつて參りました。

輕工業は比較的早くから南のメルボルン方面に初まりましたが、重工業は稍後れ氣味でした、國内に産出する羊毛を原料に用ふる毛織物トウキーズの製造は既に百年前の一八四三年開始されました、製鐵所は現在濠洲の中心企業となりましたブロークンヒル工場が、シドニーから百哩程北のニューキヤツスルに、第一次歐洲大戰の初まつた翌年に漸く出來た程度であります、從つて現在でも尙大きな艦船が製造出來る譯では無く、飛行機も數年前迄はアメリカの部分品を輸入して組立てる程度にしか進歩して居りませんでした、大東亞戰爭の初まる直前に、濠洲は英帝國のアジアに於ける兵器廠の役目をつとめるとか、武器の製造が何十倍に增進したとか、旺んに新聞電報で宣傳されたのでした。實は日本を威嚇する目的で流布されたもので、其實力を有つて居つたか否か頗る疑問で、大言壯語するとはおこがましい限りです、一體濠洲の勞働條件で製造工業を發達させるには非常に矛盾があり無理が伴ふのです、と申すのは濠洲には社會政策の一として最低賃銀法なるものが早くから實施され、勞働者の作業上の能力如何に拘らず、年齡と就業時間に依つて勞銀が支給される制度で、勞働者が仕事の出來上り高で勞銀が支給されるのに反對しますので、勢ひ生産能率は上らず勞銀が割高となり、製産原價は當然高くつくことになります、濠洲の製造工業發達上の他の障碍は、國内に人口が少なく手近の需要が少量なことにも基因します、生産原價の高いのも國内需要量の少ないのも詰る所、白濠主義を主張する當然の收獲なのです、關税保護に生産奬勵金の支給に、濠洲は何れの政府も極端な製造工業保護政策を採つて參りましたので、逐年發達の一途を辿り、最近の製産年額は四億五千萬磅にも上り、濠洲産業中最大産額の重要産業となりました、四億五千萬磅と申せば邦貨六十一億圓に當り、相當な多額でありますが、是れには電氣瓦斯等の生産迄も算入してある計りでなく、溫室産業のこととて單價が濠洲式に割高に算出されてあり、例へば他國のそれに比較すれば三十億圓とか二十億圓或はそれ以下に相當するにすぎないでせう、單價が高く、品質意匠の點でも海外の自由市場で競爭能力が少ない爲めでせう、關税で保護され國内需要には振向けられても、製造工業品の海外輸移出は、洵に微々たるもので、百圓造つた製品の内三圓四十錢、濠洲の輸出總額を百圓と假定して其内四圓にしかすぎません。

何と申しても濠洲は農牧産物の輸出で繁榮した國だけありまして、海外輸出總額の内四分ノ三は農牧産物が占める狀態です、中でも牧畜産物は重要で、生産額中の約三分ノ一を國内で消費し、六九%が輸出され、其輸出額は濠洲の輸出總額中半額以上の五二%に當ります、次いで重要なのは農産物ですが、約三分ノ二は國内で消費、三六%が海外に販賣され、輸出總額の内二四%を占めます、牧畜産物の大宗は一般に知られて居りまする通り特産羊毛ですが、濠洲自慢のメリーノ種は今より百四十五年前希望峰から初めて種羊を輸入し、純良メリーノ種はそれから二十三年後に輸入逐年改良が加へられて、現在のやうな優良羊毛を多量産出するやうになつたのであります、最近綿羊の飼育數は

一億二千萬頭、羊毛產額は三百六十萬俵に上り、內八〇％はメリーノ種、世界全產額中四分ノ一を占め、人口が少ない關係上國內消費は三十三萬俵約一割にすぎず、實に三百二三十萬俵、目方にして大凡十億封度、一封度當りの價格を英國政府の買上價格として換算すれば總額七億六千萬圓の輸出餘剩がある譯です、今回の英獨戰爭が初まりますと、英本國は直ちに（九月五日）濠洲羊毛全部を强制買上げすることに決定したのでありますが、徵發しても事實は輸送が出來ず、漸次濠洲に滯貨が累增しまして、羊毛年度末の六月末には例年四五萬俵の在荷に過ぎぬのでありますが、一九四〇年六月末には七十萬俵に、其一年後には百二十萬俵に進增し、大東亞戰爭で日本が敵國となつた爲め、輸送難は一層深刻となり、本年の六月末には或は四百萬俵以上もストックが濠洲內に堆積するのでは無いかと、專門業者間に推測されて居ります、其他の牧畜產物として、牛肉は約八割を國內で食べ一割九分を輸出し其額六千萬圓、羊肉は七割を國內で消費し輸出は三割金額にして七千三百萬圓、煉乳や粉乳等乳製品は濠洲內で六四％を用ひ輸出は全產額中約三分ノ一、金額にして千三百萬圓程であります、農產物小麥は四百四十萬噸も產出しますが、內三分ノ一約百五十萬噸が濠洲內で消費され、輸出餘剩は大凡三百萬噸であり、其內小麥粉としての輸出は五十萬噸以上、小麥と小麥粉とを合せ價額にして輸出約三億五千萬圓に上ります、濠洲は現在砂糖は自給し得て多大の餘剩があります、甘蔗糖はクヰーンスランドの北方ケーンズ地方に產出し、主に伊太利人が栽培に從事して居りますが、年產額は七十八萬噸內半分以上の四十萬噸價額にして大凡五千五百萬圓が英本國向け輸出されます、米はニューサウスウエルズ州西南部でシドニーから約四百哩離れた灌漑地區に、アメリカ式のバラ撒き水田で作られ、大規模ではありませぬが、それでも濠洲內の需要以上に出來、一萬四千噸位は年々輸出されます。

濠洲の鑛產業は今より約九十年前金鑛が西部に發見された、所謂ゴールド・ラッシュの黃金時代に比べると衰微の甚しいものがあります、未開發區の多いのと勞銀が高過ぎるといふやうな支障に依るものと思はれます、燃料油は全く輸入に仰ぎ、石炭の液化事業も未だ成功して居りませぬが、石炭の埋藏量は五百七十億噸と推計され、採掘年額は黑炭千二百萬噸、褐炭三百萬噸で、黑炭中八〇％はニューサウスウエルス州で產出、大體は濠洲內で消費されますがフイリツピンや新西蘭等海外への輸出は三十萬噸、船のバンカー炭として六十萬噸程供給されます、鐵鑛資源は十億噸といはれますが、埋藏量一億三千萬噸の南濠洲アイアンノツブ地方から鐵鑛石を水路ニューサウスウエルス州、シドニーより北方百哩のニューキヤツスル、同五十七哩南方のケムブラ港へ海運され、（兩地とも石炭產出地）、現在製鐵と製鋼製品作業が行はれて居りますが、濠洲北部でダービーの北百浬に位するヤムビーサウンドのクーラン島に六五％の優良品位の赤鐵鑛を發見し、日本鑛業が開發事業に數百萬圓を投資したのですが、一九三八年突如鐵鑛石輸出禁止の法令が發布され、採掘稼行に至らず、事業中止の已むなきこととなつたのは吳々も惜しい事でした、非鐵金屬の產額は純分として金百二十萬オンス、銀一千二百萬オンス其他亞鉛の十五萬噸、銅の一萬六千噸、鉛の十六萬噸錫の三千噸等でありまして、平時輸出能力の多いのは亞鉛の十二萬噸位のものでせう。

排他主義を基底とする白濠主義の濠洲には、一九〇一年此方吾同胞も支那人も彼等の所謂有色人種勞働者の入國は許可されませんでした、爲めに中國人は僅々八千人で、所謂南洋華僑の經濟的勢力もなく、又同胞にしても曾つては禁入前の移住成功者中シドニー市等に小賣店を開いた者もありましたが、事業の成功が續かず、現在では一店も殘存しません、從つて濠洲との貿易は、濠洲商社又は英國商社の濠洲支店等を通じて行はれるか、又は我が大中貿易商社は、支店出張所を特設又は出張員を常置して日本品の販賣とか濠洲品の仕入れを營み、又我船會社は何れも英濠商社を代理店として營業して居るやうな次第でした、大體濠洲は英國市場に貿易上輸出入共依存して居つたのですが、英

本國としては他に植民地もあり、勢力範圍下にある第三國もあり、是等諸地方との互惠的貿易關係も無視し得ぬ爲め英本國としては濠洲に貿易上依存する程度は薄いのでした、濠洲が英本國に其產物を一層賣り込まうとしても、英國市場は旣に飽和點に達し、其上英國への輸出增進を圖つても、英國以外の諸市場と濠洲との直接貿易が犧牲に供せられ是等諸市場へ英國を經て再輸出さるゝ結果となり、徒らに倫敦の貿易商社に手數料を儲けさせるだけなので、濠洲としては地の利を占める東洋市場に一層囑目し、東洋諸市場へ經濟使節を派遣したのでしたが、最大市場は結局日本であることが解りました、我國と濠洲との貿易は各分野に亘る我產業の發達と人口增加とに依り、濠洲の產出する工業原料品とか食料品等を多量に購入し、他面我商品の販賣は人絹織物とか綿織物等纖維製品以外は、多量需要商品が少ない爲め、日濠貿易尻は普通我國の支拂勘定尻を示し、其差額は年々增して、遂に濠洲品三に對し本邦品一の割合に迄貿易尻は惡化したのでした、羊毛小麥其他產物に、我買付けが濠洲市場を牛耳る程に優勢となり、他面貿易尻調整の爲め、數多雜貨類にも當然本邦品の販賣が著しく增進した等の關係で、輸出入共英本國の地盤は侵さるゝ結果となり、英本國の日濠貿易壓迫策は益々强化され、濠洲も是れに呼應して、日本品輸入抑壓のあらゆる强硬手段を無遠慮に採つたのであります。實は英本國としては、日本品の濠洲輸入を抑制すれば日本は濠洲產物の輸入制限を行ふのは當然だと百も承知して居つたのですが、英本國宣傳の効めか、濠洲側では日本品の購入を削減しても、濠洲產物は日本の絕對必需品だからきづと買ひ續けるに違ひないと、實に蟲のよい考へを起し、舐めてかゝつて來たのでした、一九三五年には出淵便節團が濠洲へ派遣され、日濠間の一般親善關係と互惠貿易促進了解に努力されたのですが、遂に一九三六年下半期には御承知の通り、日濠貿易紛爭の形で爆發し、日濠貿易の破局が到來したのでした、私は當時シドニーに駐在して居つたのですが、どうせ英國とは速いか遲いか衝突するのだ、賣つて來た喧嘩なら買つて出るに好機會である、經濟開發投資と移民の制限は國內問題として許すとしても、貿易は互惠的なものだ、少なくとも西部、南部、太平洋諸國との貿易は、我國の繩張りとして確保し、濠洲如き一屬領の不合理な態度を絕對に許すなとの强硬論を私は堅持し、時の貿易局長寺尾さんに每日のやうに發電し、遂に我國家としては加奈陀に次いで第二回目の通商擁護法の對濠洲發動となり、半年間といふもの新取引は全く杜絕しました、一九三六年末協定成立し、紛爭は一應解決しましたが、其後我國は羊毛小麥等の輸入制限國策を採つたので、以後貿易尻はバランスがとれ、少額乍ら日本側に有利な年もある位で、此度の戰爭迄輸出入共各八千萬圓程度でありました。

濠洲人の購買力は高い賃銀と高い生活程度の爲め、人口七百萬の少數であり乍ら、一般他國の三四千萬人にも匹敵すると云はれ、年に依つて違ひますが、まア大體貿易總額は輸出二十億圓輸入十五六億圓程、工業國では無い關係上輸入品は全、半製品は總額中八八%を占め、加工されてない品が僅か一割二分、輸出品は原始產物が主要部分を占めます、更に是を品種別に見ますれば、飲食物は輸出多く約九億圓で總額中四二%にも上りますが、輸入も侮り難く一億圓もあります、茶酒精飲料魚介類等海外諸國特產物の購入に依ります、是れとは反對に纖維と其製品、金屬と其製品は、輸入は全製品と半製品が甚だ多く、輸出は原產の儘とか半製品で而も金額は少額にすぎません、濠洲貿易を更に相手國別に見ますれば、英國との貿易が壓倒的多額を占め、濠洲の輸出中五割同輸入四割にも達し、一方我國との貿易は濠洲の輸入五%にも滿たず、同輸出四%以下で、日本と圓ブロック、共榮圈、外廓共榮圈をも加算しても、輸出は濠洲總額中の一五%同輸入二二%程、是れに對し獨逸伊太利と樞軸諸國とは輸出一八%輸入約一割、濠洲が我國の制壓下に入つて、貿易上著しく增進する可能性のあることを思はしめるが、是れと共に、英國の占めた優勢な地位を壓縮された平和產業下で我國が獲得するのが容易でないことを覗ひ知る可く、且つ獨逸伊太利等の平和產業對策とも、睨

め合はすことが緊要でせう、英國との貿易は輸出入共各品目に亘つて居るが通過貿易品も相當多く、北米合衆國は產業上濠洲と類似のものに惠まれて居る上に、燃燈油をも產し製造工業も發達し、羊毛には重關稅が課せられても自動車や油金屬製品等を多量に購入する關係上、普通濠洲の支拂勘定尻を示し、我國へは羊毛、小麥、亞鉛、鐵鑛、皮類牛脂等を輸出し、日本品の輸入は人絹織物、綿織物、生絲、陶磁器、帆布、本絹織物、玩具、硝子製品の順位、共榮圈と準共榮圈とは、小麥粉、バター、乳製品、肉類等食料品を輸出し、購入する方は共榮圈諸國の特產物が多量に上る爲め、濠洲の支拂勘定となる國が多いのでした、即ち東印度とは石油、茶、カポック等を多量購ひ賣る物は小麥粉バター等にすぎない爲め輸入出五對一の割合で入超一億圓にも上り、印度とは七對二の割合で四千萬圓程の入超、賣る物は小麥、羊毛、牛脂等僅か計りですが、印度物產は農產物羊毛等の包裝用袋ヘシアン織地原棉等の多量が購入されます、馬來とは生ゴムを少し買ふ位で輸出は軍港等の軍需關係にも因りませうが、食料品殊に乳製品小麥粉等を澤山出荷し差引一千萬圓程度の出超、比律賓からは大して購入する物は無く賣る方は小麥粉、煉乳、バター、石炭等比較的多く、結局濠洲の出超は七百萬圓程に上ります、濠洲に供給される日本品は英米其他競爭國品に比し品質が劣つて居ると云はれますが、更に品質の低い以上に不必要に安賣されたとも云はれます、例へば數字を擧げて說明致しますれば、綿布は約二億方碼、一億圓——總需要中、日本品は五千六百萬方碼、千五百萬圓つまり數量では二七%價格では一六%、人絹織物でも七千六百萬方碼、五千萬圓の總額中、日本品は五千萬方碼、二千四百萬圓、比率では數量六六%を供給し代金は四五%分しか頂戴せず、本絹織物にあつても三百萬方碼、三百六十萬圓中、我絹布は二百三十萬方碼、二百二十萬圓で總額中數量の八四%に對し價額は六三%にすぎず、帆布でも一千四百萬方碼中四百萬即ち三〇%、金額では一千三百萬圓中二百三十萬圓一八%といふ比率であります、今後我國と濠洲とが、どのやうに政治上結

合さるゝとしても、貿易價格政策上留意して適切な對策を講ずることが緊要でありませう。

貿易上其他につき尙申上げたい點は數々ありますが、與へられた時間も既に超過しましたし、且つ又英國屬領下にあつて、英本國と濠洲の人爲政策に依つて顯はれました諸現象を、くど〳〵申し上げましても、大東亞戰爭前ならば兎も角、今後有効な資料となるかどうか疑問であり、將來は濠洲を日本がどう處理するかといふことが問題の中核となりませうから、私の話しは此の邊で打切ることに致します、不味い話しで恐縮の次第ですが、長い間御靜聽下さいまして有り難う存じます。

附錄

濠洲に關する諸統計（一九三六年度）

東京商工奬勵館調査

一、集約統計（濠洲聯邦）

總面積	三、一五八、一二一平方哩
總人口	六、八〇四、三九七人
輸出	一二八、一九一、〇八二英磅
輸入	九二、五三三、七八七〃
農産生産	七五、三八八、〇〇〇濠磅
耕産生産	一三八、八一九、〇〇〇〃
農産生産	二七、五六二、〇六二〃
酪産生産	四一四、六八八、四五五〃
鑛業生産	六、八〇七、五九六〃
工業生産	六、一〇七、七〇三瓲
林業生産	五、四八〇、三四七〃

漁業生産　一、八一六、八〇三〃

二、面積

濠洲聯邦　二、九七四、五八一平方哩
ニューギニア（委任）　九三、〇〇〇〃
パプア　九〇、五四〇〃
總面積　三、一五八、一二一〃

三、人口

人口（純土人を除く）　六、八〇四、三九七人
純土人人口　五三、六九八〃
總計　六、八五八、〇九五〃
濠洲人口密度　一平方哩當り　二・二九人
各州別人口密度、及面積對比

	（面積比率）	（方哩密度）
首府區	〇・〇三%	一〇・四一人
ニューサウスウエールス	一〇・四〇〃	八・六七〃
ヴイクトリア	二・九六〃	二一・〇七〃
クヰンスランド	二二・五四〃	一・四六〃
南オーストラリア	一二・七八%	一・五五人
西オーストラリア	三二・八一〃	〇・四六〃
タスマニア	〇・八八〃	八・九七〃
北部地方	一七・六〇〃	〇・〇一〃

人口の都市集中

		（總人口に對する比率　%）
六大都市人口計	三、一八九、四九〇人	四七%
シドニー	一、二六七、三五〇人	
メルボルン	一、〇一八、二〇〇〃	
ブリスベン	三一三、四三〇〃	
アデレード	三一六、八六〇〃	
パース	二一二、一五〇〃	
ホバート	六一、五〇〇〃	

（註　濠洲總人口へ　六、八〇四、三九七人）

四、輸出入

濠洲輸出入に對する列國比率

英本國	（輸出）	（輸入）
	四一・五〇%	四九・三二%

カナダ	六・六〇〃	一・〇七〃	
其他英領	九・五三〃	九・六八〃	
（英帝國計）	（五七・六三）	（六〇・〇七）	
日本	六・〇九〃	一四・一二六〃	
米國	一七・〇五〃	四・五三〃	
其他	一九・二三〃	二五・二八〃	
（諸外國計）	（四三・三七）	（三九・九三）	
	一〇〇・〇〇〃	一〇〇・〇〇〃	

主要商品輸出數量及價格

バター、チーズ牛乳、クリーム	二、一〇三、五五三百斤	八、九四八、三七四濠磅	
肉類	三、一八五、四八九百斤	一〇、三二二、八三七〃	
果實類	四三、〇六七、〇一二〃	五、〇五〇、〇八三〃	
小麥粉	一一、二九五、五六三〃	一八、七六〇、三七二〃	
小麥	八〇四、七七〇瓲	五、五九六、二五〇〃	
砂糖	九、一六一、〇七七百斤	二、八八七、五八九〃	
羊毛	二、六〇三瓲	六二、五二六、三四六〃	
眞珠貝		三一九、六三一〃	

木材	三四〇、五五八瓲	六〇七、〇〇二〃	
石炭		三〇〇、八四二〃	
金（純輸出）		一一、六六六、七三三〃	
銀	二二四、二六二瓲	六六九、〇七六〃	
其他金屬		六、一七五、八〇三〃	

主要商品輸入數量價格

石油類		三九五、二〇八、九四八ガロン	
精油		六、三九六、五六七濠磅	
		一〇〇、七八八、二五六ガロン	
機械		五五〇、五五〇濠磅	
鋼鐵		七、五九三、九二八〃	
金物		二、七〇三、七六〇〃	
自動車		一、三八二、五四八〃	
ゴム製品		六、三七六、五四八〃	
時計		一、六七五、〇一七〃	
ガラス		五一〇、三八六〃	
		八六六、九八七〃	

紙、文具	四、三三六、五七二〃		
藥劑（化學藥品肥料含ム）	四、五二〇、二三七〃		
魚罐	二九、八六六、五五二斤		
茶	八一九、六一一瀛磅		
タバコ	四八、六五七、〇八四斤		
裝身用品	二、四四一、八一二瀛磅		
カーペットリノリウム	一、七一四、九六〇〃		
棉織物	一、六五五、四八一〃		
絹人絹織物	一、七一七、二五四〃		
毛其他織物	五、〇七七、五一五〃		
裂物	二、八七五、三七一〃		
各種糸	一、九八三、四一六〃		
	一、六五五、四三一〃		
	一、一八一、八三六〃		

産業別輸出價格、生産輸出各比率增減指數

	（輸出價格）	（生産）	（輸出）	
農耕生産	二七、七四八、七三九瀛磅	二〇・六五％	二四・四〇％	一九三一年ヲ一〇〇トスル指數 二六〇

畜産	六七、五二〇、二〇八〃	二三・五六〃	五二・四三〃	一六一
酪農産	一一、二一八、三三〇〃	一一・九五〃	八・五九〃	二九一
鑛産	一六、八五四、八二八〃	四・九九〃	九・六二〃	七七
林産	一、二九六、四九六〃	二・七五〃	一・一九〃	八四
漁産	五、九三六、八六〇〃	三六・一〇〃	三・七七〃	二五八
工業生産	一三〇、五七五、四六一〃	一〇〇・〇〇〃	一〇〇・〇〇〃	一五九
（計）				

933
E
257

933 國 257 滿 會 月 日
滿洲事情
御參

既刊資料叢書一覽

題名	氏名
一、旅商歸朝座談要錄〔絶版〕	有馬純直氏
二、外國貿易をするには。滿洲貿易の仕方〔絶版〕	諏訪辰三郎氏
三、對南洋輸出貿易の現在及將來〔絶版〕	安本重治氏
四、西南亞細亞諸國を訪問して	太田三郎氏
五、日蘭會商の經過と其後の貿易狀況	岡野繁藏氏
六、東京貿易に於る輸出運輸上の缺陷〔絶版〕	佐々木仁一氏
七、米國の主要都市に於ける百貨店名〔絶版〕	高井清吉氏
八、南洋事情	久慈忠氏
九、印度事情	宮下孝雄氏
十、印度事情	永持德一氏
十一、印度事情	渡貫尙氏
十二、印度事情	花岡蓁氏
十三、印度事情	久慈忠氏
十四、印度事情	宮下孝雄氏
十五、印度事情	永持德一氏
十六、印度事情	渡貫尙氏
十七、印度事情	花岡蓁氏
十八、印度事情	久慈忠氏
十九、印度事情	宮下孝雄氏
二十、印度事情	永持德一氏
二十一、印度事情	渡貫尙氏
二十二、印度事情	花岡蓁氏
二十三、印度事情	久慈忠氏
二十四、印度事情	宮下孝雄氏
二十五、印度事情	永持德一氏
二十六、印度事情	渡貫尙氏
二十七、印度事情	花岡蓁氏
二十八、各國インボイスと輸出價格算出法	有馬純直氏
二十九、紐育市場蒐集參考品解說	
三十、貿易の現狀を語る〔絶版〕	
三十一、最近の印度事情と貿易狀況	
三十二、輸出振興會社に望む座談會速記錄	
三十三、米國市場蒐集見本說明書	
三十四、爪哇に於ける東京機械實演展報告	
三十五、亞爾然丁貿易商工事情	
三十六、輸出工藝二論	
支那人のについて	
貨展覽會報告書	
機械實演展報告	
參考品說明書昭和一五年度〔絶版〕	
戰制度に就て	皆川潔氏
爲替管理に就て	好田稔氏
關手續	德村昭夫氏
其取組法	清水克隆氏
險に就て	片平省三氏
輸出雜貨）報告書	
に就て	渡貫尙氏
話る	乙部四郎氏
物運送	東登氏
活と工業の將來	安本、岩崎兩氏
事情	

、最近の蘭印市場と我輸出貿易（絶版）岡野繁藏氏

933
E
257

既刊資料叢書一覽

	題名	氏名
一、	旅商歸朝座談要錄(絕版)	
二、	外國貿易をするには。滿洲貿易の仕方(絕版)	諏訪辰三郎氏
三、	對南洋輸出貿易の現在及將來(絕版)	安本重治氏
四、	西南亞細亞諸國を訪問して	太田三郎氏
五、	日蘭會商の經過と其後の貿易狀況	岡野繁藏氏
六、	東京貿易に於る輸出運輸上の缺陷(絕版)	佐々木仁一氏
七、	米國の主要都市に於ける百貨店名(絕版)	
八、	南阿弗利加事情に就て	高井清吉氏
九、	輸出通關手續に就て	藤崎銳樹氏
十、	シカゴ中心の米國中西部貿易事情(絕版)	小川末次郎氏
十一、	雜貨の重要性と東京雜貨	佐々木仁一氏
十二、	亞米利加項談	安本重治氏
十三、	南阿弗利加に就て	中川彦治氏
十四、	米國勞働者の罷業と對米貿易	田中要之助氏
十五、	比律賓の早期獨立と其反響	渡邊蕉氏
十六、	分離後ビルマとその貿易	大場忠氏
十七、	外國爲替管理法に就て	原田富一氏
十八、	加奈陀經濟及貿易事情	大沼恒氏
十九、	中北支に於ける商工業實情報告(絕版)	
二〇、	輸出不振に關する座談會要錄(絕版)	
二一、	佛領印度支那事情(絕版)	川田信衛氏
二二、	代用品に關する座談會要錄(絕版)	
二三、	蒙疆事情(絕版)	蒙疆旅商一行
二四、	對米輸出貿易上の諸問題	渡邊久克氏
二五、	白耳義及和蘭の貿易事情	齋藤功氏
	最近に於ける北支貿易事情	栗原一平氏
	最近の蘭印市場と我輸出貿易(絕版)	岡野繁藏氏

	題名	氏名
二八、	各國インボイスと輸出價格算出法	
二九、	紐育市場蒐集參考品解說	有馬純直氏
三〇、	貿易の現狀を語る(絕版)	
三一、	最近の印度事情と貿易狀況	
三二、	輸出振興會社に望む座談會速記錄	
三三、	米國市場蒐集見本說明書	
三四、	爪哇に於ける東京機械實演展報告	
三五、	亞爾然丁貿易商工事情	
三六、	輸出工藝二論	久慈忠氏
三七、	支那及支那人	宮下孝雄氏
三八、	第三國貿易について	永持德一氏
三九、	外國電信に就て	渡貫尙氏
四〇、	第一回東京輸出雜貨展覽會報告書	花岡蕉氏
四一、	泰國に於ける東京機械實演展報告	
四二、	米國市場蒐集參考品說明書(昭和一五年度)	
四三、	改正輸出補償制度に就て	皆川潔氏
四四、	我國に於ける外國爲替管理に就て	好田稔雄氏
四五、	輸出通關手續	德村昭夫氏
四六、	外國爲替及其取組法	清水克隆氏
四七、	積荷海上保險に就て	片平省三氏
四八、	東京工藝綜合展(輸出雜貨)報告書	
四九、	貿易統制に就て	渡貫尙氏
五〇、	泰を語る	
五一、	船と貨物運送	乙部四郎氏
五二、	インドネシヤ人生活と工業の將來	東登氏
五三、	濠洲事情	安本、岩崎兩氏

988
257

終